

千代田区長選

子育て政策聞いてみた

候補者政策アンケート

この度はみらい子育て全国ネットワーク(miraco)のアンケートへのご回答を検討いただきありがとうございます。

私たちは子育て中の親が中心となって作る市民団体で、子育て世代や若者が政治に興味を持ち投票へつなげる事をめざしています。これまで、身近な「子育て」に関する政策アンケートを2017年の衆議院選挙より開始し、各首長選挙や、統一地方選挙、参議員選挙などの立候補者に対して実施し、それをTwitterやfacebookなどのSNS等で拡散してきました。(詳しくはWebサイトをご覧ください <https://miraco-net.com/seijisanka/>)

今回のアンケート作成にあたっては、これまで私たちに取り組んできた子育てに関する課題を中心に、子育て中の千代田区民の方へのヒアリング、および「千代田区次世代育成支援計画策定のためのニーズ調査報告書(平成31年3月)」を元に設問を用意させていただきました。

頂戴した回答は、公示日後にSNS等で広く周知させていただき、またWebサイト上で候補者同士の比較がしやすい形で公開させていただく予定です。

多くの有権者に皆さまの「子育て政策」への想いを届けるお手伝いできればと思っております。ご多忙の折恐縮ですが、ご協力の程どうぞよろしくお願いいたします。

令和3年1月19日
みらい子育て全国ネットワーク

返信先 E-mail: hoikuenhairitai@gmail.com

回答締め切り 1月25日(月)

候補者のお名前: いがらし朝青

ご本人様のご署名をいただけますと幸いです。

1. 保育園について

①待機児童について

千代田区内の2020年4月時点での保育園待機児童は0人となっていますが、千代田区の待機児童の定義では、認可保育園の申込時に区内全園を希望しなければ待機児童としてカウントせず*1、待機児童から除外しています。こうした、現実的に通える範囲の園に空きがないなどの、隠れ待機児童を含む待機児童数は77名（地方単独事業を利用+特定の保育園等のみ希望）となっています。

*1:「特定の保育園等のみ希望」に集計

1-1. 当区の待機児童のカウント方法および待機児童対策全般について、現在の対応で十分とお考えですか。

はい。現在の方針を継続することで良い。

いいえ。不十分であり、現在の方針を見直す必要がある。

1-2. 1-1の回答を選んだ理由を教えてください。（「いいえ。不十分である」を選んだ方は、**どのような施策を行っていきたいか具体的な提案**をお聞かせください。）（上限：200文字）

通える保育園でなければ意味がない。区内全園でなく各区民が希望した認可保育所の範囲で入園可否を判断し、「実態としての待機児童数」を明らかにしたうえで対策を行いたい。定員増や公立民営化、小規模保育や幼稚園の認定こども園への変更などを実施し、さらに近接する認証保育施設へ通園する際の費用補助、離れた保育園が当選した場合にもご近所で送迎を支え合えるような地域コミュニティの再構築・活性化などの支援策も考える。

（200字）

②保育者の確保・定着について

1-3. 保育はその業務負担や責任の重さに対して、他業種に比べ給与水準が低く（都内全産業平均と保育士の年収格差は約210万円(R1年))、保育の現場では長年、人材の枯渇・現場のひっ迫が叫ばれています。

保育者の確保・定着のために千代田区が行っている施策について、**現在の評価**をお聞かせください。もし**保育者の処遇改善が必要**だとお考えの場合は、「何を」「どのように」改善するのが適切だとお考えか、**財源とともに**お聞かせください。（上限：200文字）

保育は保育士のみならず、栄養士等の他職種やパート等多くのスタッフが関わって運営され、保育者にも組織マネジメント能力が求められると考える。都・区が5年前から進める「キャリアアップ補助金」はその目的と成果を一定程度評価しており、継続を求める。区としては財政調整基金の一部を、キャリアアップ目指す保育士への補助額増額に充てたい。また、保育士が長く勤務でき、保育の質を高めることを目指した施策も行います。

（198字）

③保育の質について

1-4. 千代田区においては認可保育所だけではなく、認証保育所や企業主導型等、認可外保育施設も多く存在しています。全国的には、認可保育所でも不適切保育や、ベビーシッターにおける小児わいせつ事件なども発生しています。

保育の質確保・向上に対し、**千代田区で今後拡充したい施策**があればお聞かせください。

(上限：200文字)

企業主導型やベビーシッターは児童育成協会や全国保育サービス協会が審査・認定など質確保していることを評価するが事件発生も事実。自治体として硬直的なルールに依存せず、各事業者がコミュニティの一員として地域活動に参加してもらい、相互にコミュニケーション（良い意味での監視）ができる環境をつくる。また地域で子育て経験者など保育支援人材が手を上げ、支え合えるオンライン・オフラインの地域包括的な環境を整備する。

(200字)

2. 放課後の子どもの居場所について

千代田区の学童保育の待機児童はゼロと言われているものの、フルタイムの仕事でないと枠に入れない、高学年になると入れない、など潜在待機児童が存在すると考えられます。また、放課後子ども教室は夕方の預かり時間が短く、長期休暇中は行われていないなど、働く保護者が多い中、仕事を続けることが難しいという声があります。

2-1. 小学校以降の放課後の子どもの居場所について、現状の施策で十分ですか。

はい。十分である。

いいえ。不十分である。

2-2. 2-1の回答を選んだ理由を教えてください。（「いいえ。不十分である」を選んだ方は、**どのような施策を行っていきたいか**も教えてください）（上限：200文字）

学童クラブ以外に子どもが放課後に安心して遊べる環境を作る。公園毎に週1回となっているプレーリーダーの（子どもの遊び場事業）3倍程度の拡充、放課後時間帯の区内運動施設の自由利用、児童センターの延長預かりなど現行ルールを一部見直し、対応したい。また、子育て企業や社福、保育園など複合的に地域でこれらを支える。子育てに優しい千代田区を目指し、保護者の働き方の多様化にも柔軟に対応できる体制を整える。（196字）

3. 公園・遊び場について

3-1. 千代田区は、公園と名の付くスペースがあっても遊具が少ない、狭い、ボール遊びが禁止されている、時間制限が厳しい、雨の日に身体を動かせる場所がないなど、小学生や幼児がともに安全に楽しめる公園や遊び場を充実させてほしいという声が多く寄せられています。

この課題について、あなたの考えを**具体的な施策**とともに教えてください。（上限：200文字）

遊具や設備にこだわらず「公園という安全に走り回れるスペース」を有効に活用することを考えたい。自由な遊びを後押しするプレーリーダー（子どもの遊び場事業）など「子供だけの遊び」にこだわらず、親と子がともに公園で遊び、楽しめる環境づくり（ワークショップなど）を行いたい。また、適切な安全対策を施す前提だが、子供がボール遊びをして肌でその魅力を感じ成長していけるような環境を整備したい。

(190 字)

4. 多胎児支援について

4-1. 双子や三つ子といった多胎児を持つ親の多くが家事や育児の手が足りず支援が必要と感じていること明らかになったことから、国や東京都で多胎児支援制度を拡充させています。文京区・台東区などの近隣の区がこれらの制度を利用して移動経費補助やヘルパー事業拡大をする中、千代田区では現状、多胎児家庭に特化した支援はなにも行っていません。千代田区での今後の対応について、あなたの考えを**具体的な施策とともに**教えて下さい。（上限：200 文字）

喜びとともに負担も 2 倍 3 倍となる多胎育児を支えたい。移動経費補助やヘルパーだけでなく、多胎育児経験者などによるピアサポート事業の創設を考えたい。また「困ったときにお隣さんが支える」地域コミュニティの再構築・活性化を実現したい。マンションなど地域コミュニティで、当事者や支援者の円滑に支えあう際にデジタルツール（千代田区 アプリ）もうまく活用したい。（173 字）

5. 学校教育について

①学級崩壊対策について

5-1. 小学校での学級崩壊の話が毎年のように聞かれますが、担任の力量のみに頼ることのリスクも鑑み、専門知識を持つ支援員を常時関与させるなどの対応が必要ではという意見もあります。教育現場への支援について、あなたのお考えを教えてください。（上限：200 文字）

担任や教師 1 人が 40 人を観るのではなく、ティーチングアシスタントなどを活用し、複数で観る、普段から教師同士が相互に授業内容を気軽に見合える環境づくりが求められると考える。「多忙」と言われる教師の事務作業負担をデジタル化で軽減したい。さらに、経験豊かで意欲ある退職教員による教育現場サポート体制の構築を考える。（147 字）

②ICT/オンライン教育について

5-2. 千代田区の公立小では、昨年 2 月末の一斉休校から 2 か月半後の 5 月中旬に、ホームルームや一部授業のオンライン化を開始しましたが、私立学校と比べて対応が遅く、教育格差への懸念が生じました。

また、昨年 12 月に一人一台のタブレット配布を実現させたものの、「何を学ばせるか」が不足しているのか、タブレットでの学習について、子どもたちから「つまらない」という反応も

聞こえてきています。この現状について、千代田区はどう取り組むべきかあなたの考えをお聞かせください。（上限：200文字）

タブレットを持たせるだけでなく、ネットワーク環境の整備および、オンラインに特化した授業方法の大胆な見直しが求められる。オンライン授業に特化したスタジオ環境整備やカリキュラム整備は学校・教師任せでは困難なので、千代田区に拠点を持つIT企業（yahooなど）・メディア企業（ニッポン放送、TOKYO FM、MXテレビ等を想定）など民間活力の活用で大きく改善したい。千代田区からオンライン教育のスタンダードをつくりたい。（198字）

6. 子育て世代の声を反映した街づくり

6-1. 現在の千代田区の子ども子育て会議は、区民の声を施策に反映させるような運営になっていません。もっと子育て世代のリアルな声を集め、実際に街づくりに活かされるような場を作ってほしいという声もあります。これについて、あなたの考えを**具体的な施策とともに**教えて下さい。（上限：200文字）

千代田区こども子育て会議は子育てしながら住みやすい街にするために大切な会議。子育ての課題について施策立案していることは評価するが、有識者、実務者及び数名の区民が年数回集まって検討する運営体制は改善の余地がある。ビジネスにおけるPDCAのように、行政施策も頻度多くフィードバックをもらって改善したい。区民から区長に直接意見を伝えられる専用LINEも設置予定で、こうしたご意見もどんどんお聞きしたい。（198字）

7. その他子育て政策について

7-1. 1~6の質問以外で、推進されている（されようとしている）子育てに関する政策がありましたらお聞かせください。（上限：200文字）

子育ての課題は当事者だけの解決は難しく、困った時に気軽に頼れる「隣近所」が今こそ必要。「地域全体で育てる」考えの下、「地域コミュニティ」の再構築・活性化を行う。また区長に現場・区民の声がしがらみなく届き、建設的な対話を行える風通しのよい環境を速やかに整える。子供達がワクワク学び成長できる環境を作り、自律性を育むことが急務。麹町中の既存の枠に囚われず自主性を伸ばす教育を小学校等に広く横展開したい。（200字）

ご回答ありがとうございました。